

古事類苑

植物部二十三

草十二

茄子  
名稱

〔真本新撰字鏡〕七茄求依反茄子、

〔倭名類聚抄〕十七茄子附字 釋氏切韻云、茄子一名紫瓜子、茄音荷、和名、奈須比、崔禹錫食經云、茄子味甘酸、唐

力減反、鹹味也、鹹音初減、温有小毒、蒸煮及以水釀之、食爲快菜、

〔伊呂波字類抄〕奈茄子ナスビ 紫瓜子 同 蒬萩 落蘇出拾遺、已上二名

〔下學集〕下木ナスビ茄子又名落蘇、又名崑崙瓜、花時取、

〔和爾雅〕七茄ナスビ同、或稱崑崙瓜並 銀茄シロナスビ 水茄ナカナスビ 青茄アヲナスビ

〔東雅〕十三蔬茄子ナスビ 義詳ならず、倭名鈔に註せし所に依らば、ナとは中也、スとは酸也、ビとは

實也、其實の味澀りぬるをいふ也、倭名鈔茄子の下に、酸字を附して、崔禹錫食經に、茄子味甘酸と

いへり、唐韻に、酸は鹹味也、と見ゆ、鹹は酢味也、俗にエグジといふと註せり、今俗にエグシといふは、酸味には同じから

ず、されど古の時に、是を酸澀の味となせしと見えたり、諸家の本、草によるに、芋のエグキ、茄子のシブキ、並に澀をもて云ひけり、

〔天上薦御名之事〕女房ことば

一なすび なす

〔見た京物語〕茄子をなぎそうといふ

〔本朝食鑑〕三菜茄須訓奈比

茄子種類